

一般社団法人日本水なし印刷協会(日本WPA、田島久義会長)は2月9日、第20回セミナー見学会を開催した。今回のセミナー見学会では、水なしH-UV印刷に挑戦してすぐれた生産性を実現している北日本印刷(株)(本社・富山県富山市草島134の10、川口秀春社長)の稼働状況を見学した。また、見学会終了後に場所を移して、同会会員の(株)アイカ(本社・愛知県名古屋市中区木下町35、渡邊照雄社長)の渡邊功専務を講師に招き、「印刷物トスマホアプリでCO<sub>2</sub>↓費用対効果↑」を演題としたセミナーを開講した。

# 日本WPA 北日本印刷で見学会 アイカ・渡邊専務が講演



川口社長



渡邊専務

見学会が行われた北日本印刷では、平成15年に導入したダブルデッカータイプの菊全判両面専用4/4色機と、平成24年に導入した菊全判4色H-UV印刷機(いずれも(株)小森コーポレーション)が稼働している。4/4色機については、元々は水あり印刷機だったもののファンアウトが発生しやすかったため、それを防ぐために水なし印刷専用機へと転換し、その結果、見当性が向上して刷りやすくなっていく。4色H-UV印刷機については納期対応力強化を狙って採用したもの

で、現在は水あり/なし兼用機として運用している。水なし印刷においては、版面温度の条件が広がったことで地汚れ耐性が改善され、UV印刷適性にすぐれる刷版「東レ水なし平版 TACレグU8」を使用している。稼働実演では4色H-UV印刷機を使い、カレンダーの印刷を行い、その品質や即乾性をアピールすることにも、水あり印刷とは違ってゴーストが出づらいついも示した。同社では、水なし印刷の場合は印刷開始時に色がすぐに合う上、刷りまで色安定性も高いことが

減る。水なし印刷のスキ

ら、水なし印刷は若手オペレーターが担当をしている。見学会の冒頭、あいさつに立った北日本印刷の川口社長は、「H-UV水なし印刷に挑戦した当初は、エッジピックや地汚れなどの問題もあったが、インキメーカーの助けもあって今は問題もクリアし、順調に運用している。資機材のコストは少し高くなるのかもしれないが、前準備時間短縮、損紙削減といった効果があるため、トータルで考えれば吸収できている。H-UV印刷は完全に乾燥した状態で印刷物が出てくるので、デリバリーでのトラブルが起こらないことから、印刷オペレーターにとってストレスの要因となるものが一つ減る。水なし印刷のスキ



水なしH-UV印刷の実演のようす

ルレス性と相まって、印刷がとてもしやすいシステムだと思つて述べた。

会場を移して開催したセミナーでは、チラシに専用ARマーカーを付けることでできるクロスメディア戦略やその仕組みについて学んだ。その大要は次のとおり。

紙媒体にARマーカーを添付することによって紙媒体を超えた表現方法ができることは当然のことながら、成約率の向上、ユーザーのスマートフォンへのプッシュ配信による開封率および随時発信性の向上を図ることができ

さらにはアプリ起動の日時・場所の解析もできることから、それに基づいて地図情報などへと展開して、紙媒体の配布エリアの見直しや柔軟な販売計画を提案するといった、顧客のPDCAサイクルに参画することもできる。